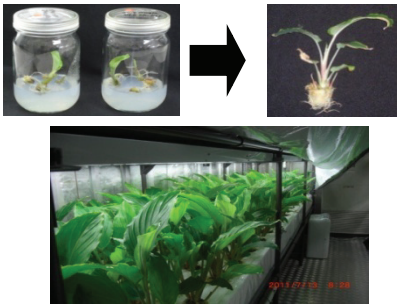
企業ニーズと大学シーズのマッチング

野　口　正　樹
NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

H21アグリビジネス創出フェアin東海における技術相談が始まりである。農商工等連携事業で、タイ国から導入した黒ウコン（ショウガ科バンウノン属）を栽培しているが、生産が不安定で、増殖効率が悪いので、これを打開するための技術開発をしたいとのことである。

黒ウコンは栄養繁殖性で、高温性作物であることから、環境制御下での生育特性の解明が必要であると考え、ワサビの植物工場生産を確立している岐阜大学田中教授とのマッチングを行った。

当研究会は岐阜大学との産学官連携ネットワークを通じて技術シーズの収集・整理をしており、当初のマッチングは順調に進められた。また、田中教授はワサビ植物工場のシステムを応用する視点から強い関心を示され、企業側は新規事業を創出することに向けての強い意欲を有していることから、共同研究により、「黒ウコン組織培養苗作出技術の確立」、「黒ウコン植物工場生産技術開発」の課題を実施して実用技術の確立にまで至った。



（黒ウコン組織培養苗と植物工場生産）

当研究会では、これらの成果をさらに発展させて事業化へ繋げていくため、H22事業化可能性調査案件として登録し、文献・特許調査、現地調査等を実施して、競争的研究資金への提案を模索した。農林水産省は、H23委託プロジェクト研究「農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発」において、①機能性成分の分析技術の開発、②機能性成分の生体調節機能の解析、③機能性成分を高含有する農産物等の開発等を含む総合的研究を公募した。

黒ウコンの課題を進展させるためには、機能性成分の解析や臨床試験にも取り組む必要があると考え、関係者のネットワークを通じてこれらの専門分野の研究者と接触して、コンソーシアムの形成に向けて奔走した。委託プロジェクト提案には、関係機関の連携と実績が必要であり、申請書の作成、ブラシュアップに精力的に取り組んだが、採択には至らなかった。しかし、この検討過程が貴重な糧となり、先行する組織培養苗生産の事業化を推し進め、岐阜大学発ベンチャー企業を設立するに至った。

ベンチャー「黒ウコンジャパン株式会社」は、黒ウコン組織培養苗の生産・販売のシステムを確立したが、生産農家・事業者にどのように普及させ、商品化にどのように寄与していくかは今後の課題であり、知的所有権の確保も考慮していく必要がある。当面は、黒ウコン導入品種の組織培養苗が新規形質を付与されているかを調査し、新品種登録が可能かどうか見極めることについて支援をしていく予定である。

産学のマッチングから出発した成果が、黒ウコン培養苗を利用した沖縄での露地栽培、東海地域等での施設栽培に展開し、新たな雇用創出に繋がるとともに、健康食品の販売を通じた高齢化社会と国民の健康に寄与することを願っている。

氏　　名　：野口 正樹（のぐち まさき）
専門分野　：野菜園芸、栽培生理
所属･役職：NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局長
略　　歴　：三重大学農学部卒、蚕糸試験場、野菜試験場、熱帯農業研究センター研究員、野菜茶業研究所研究部長を経て、2004年よりNPO法人東海生研コーディネーター

メッセージ：
１）野菜の栽培及び栄養・機能性成分、２）地域バイオマスの利活用等に関心があり、シーズ研究の発掘、シーズとニーズのマッチング、競争的研究資金への応募支援等の産学官連携支援活動に従事しています。